

タイトル	The Arrival				
著者（文・絵）	Shaun Tan				
出版年	2006	出版社	Hachette Australia Pty Limited		
翻訳版	『アライバル』河出書房新書、2011 年				
総語数	2 語	ページ数	128 ページ	YL レベル	N/A
あらすじ					
妻と幼い娘を持つ男性は、何か恐ろしいことが起こりつつある国を離れ、新天地をみつめるために家族を置いて独り別の国へと旅立ちます。そして、船で到着した右も左も分からない場所で移民としての生活を始めます。家族を呼び寄せて再び親子 3 人で暮らすことは叶うのでしょうか。					
紹介					
本作は全 6 章で構成されています。出版時には、「文字のない絵本」「大人のための絵本」と謳われ、大きな反響を得ました。作者のショーン・タン（1974 年～）は、イラストレーター、画家、作家として多方面で活躍しています。オーストラリア生まれのタンは、アイルランド・イギリス系オーストラリア人の母、マレーシア生まれでオーストラリアに移住した中国系の父との間に生を受けたためか、彼が紡ぐ物語には移民や「どこか私とは違う誰か」が登場します。彼らが異文化に接触した時に感じる違和感、不安、生きづらさ、シンパシー、帰属などのテーマを絵本という媒体で表現した <i>The Red Tree</i>, <i>The Lost Thing</i>, <i>Erick</i>, <i>Cicada</i> などの作品で、タンは数々の賞を受賞しています。劇やミュージカルとして上演された作品もあり、<i>The Lost Thing</i>（本 HP 絵本紹介一覧の <i>The Lost Thing</i> 参照）では自らアニメーションを創作し、2011 年度、第 83 回アカデミー賞短編アニメーション賞を受賞しています。 さて、読者の皆さんは、題名の他には全く文字がないのに「英語多読？」と、疑問を抱いたのではないのでしょうか。本 HP は、絵本であっても学生の知的好奇心を満たす作品を選び紹介していますが、作品によっては一見幼い印象を与えるものもあります。その点、本作は成熟した学習者が興味を引くテーマを内包しています。実際には、絵という非言語メッセージだけを手がかりに本作を読み解くには、歴史や社会問題に関する幅広い知識を要するため、難しいと尻込みする学生が多いかもしれません。しかし、「難しい」「分からない」という初見の反応こそが、知らない世界、違う世界に面する時の経験にまさに重なるものであり、若い学習者にとっては読書を通して得られる、ある種の異文化疑似体験になります。文字がないがゆえに、「分からない」「通じない」「つながりたい」ことが、よりリアルに感じられるのです。 絵本を読む時に幼い読者は文字より絵を注視しますが、私たちは長じるにつれ文字志					

向になります。本作は文字がないため、否が応でも個々の絵、微細なディテール、色やトーンなどが重層的に読み手に訴えかけてきます。そのため、コミュニケーションにおける非言語要素の役割を再認識する助けになります。

描かれた街並み、港、人々の服装や持ち物は、過去のいつか・どこかを喚起させる既視感や郷愁を、さらに不思議な建物や奇妙な生物は未来感やファンタジーを感じさせます。どの絵も細かな描き込みで、本を開くたびに新しい発見があります。上述のテーマだけでなく、「別れと出会い」「家族」「愛」「信頼」「良心」など、普遍的で肯定的なテーマについても考えさせられます。それもタンにファンが多い理由のひとつでしょう。本作では、“For my parents.”と両親に謝辞が捧げられています。2019年5~7月に東京都板橋区のちひろ美術館で開催された回顧展「ショーン・タンの世界：どこでもないどこかへ」は、若者から年配の人まで大人のファンで大盛況でした。

本作の帯にはこう書かれています。「文字なし絵本の無限大」。ぜひ、ショーン・タン独自の世界観を堪能してみてください。

指導ポイント・授業活用例・学生の声など

【授業活用例】

Lesson 1

- ① タイトルの arrival という語を黒板等を書いて意味を問う。必要に応じて辞書を使って意味を確かめる。その後、この語から何を連想するか意見交換する。
- ② グループごとに、arrival のイメージを絵に表す。
- ③ 扉ページに載っている肖像画群を見ながら読み取れることをグループで話す。
北米、オセアニアの移民の歴史を有する国々の博物館には、必ず移民の歴史や生活を展示があり、このような肖像画・写真が展示されています。(例) Royal British Columbia Museum, Victoria, Canada; the Immigration Museum – The Statue of Liberty & Ellis Island in New York, the USA; Otago Museum in Dunedin, NZ; Toitu Otago Settlers Museum in Dunedin, NZ.
- ④ 個人あるいはグループで、じっくりと Part I に目をとらす。
- ⑤ 絵から得られる情報や解釈をグループ内で意見交換する。気になるイラストやイラスト中のモチーフを選び、解釈の可能性を皆で考えてみるとよい。
- ⑥ 最初のページに戻り、Part I を1人1~2頁ずつ担当しながら順に即興で物語をつくる。ステップ⑤で意見交換をしても解釈は各自で異なる可能性がある。この活動では、他の学生の解釈を受けて自分なりの新しい解釈につなげてアウトプットする瞬発性や、異なる解釈を許容する柔軟性を養うことを主眼にするため、英語の誤りにはあまり焦点を置かなくてよいが、教員が机間巡回し気づいた点（重要あるいは頻出する誤りへの助言）は、ストーリーテリングが終わった後にフィードバックする方法がある。

- ⑦ 授業後の課題として、物語の背景を調べる。次回授業で、調べた内容を要約して口頭で報告する。

➤ 課題例

- ・移民とは何かを調べる。
- ・世界における移民の歴史（移民の転機となった天候、政治、宗教との関連も含め）を調べる。
- ・移民の回想録を読む。
- ・移民が出てくる映画を鑑賞する。
- ・作家に関して調べる。

ショーン・タンのプロフィール、ショーン・タンの他作品（絵本、アニメーション等）を探し、鑑賞する。

Lesson 2

- ① Part I を振り返る。
- ② 課題で調べた内容を報告する。必要に応じて、教員から補足説明やミニ・レクチャーを行う。
- ③ グループで Part I を再読し、再解釈を試みる。
- ④ グループで 1 場面を選び、その場面のモノや人を身体だけで同じ格好で再現する「静止画」をつくる。各自、なりきったモノや人の立場でひと言発話しすることで登場人物の気持ちを推測し疑似体験する（詳細はアクティビティー欄「寸劇・ドラマ」参照）。
- ⑤ Part I のナレーションづくりをし、練習後に発表する。
- ⑥ 授業後の課題として、各自、Part I のストーリーを作り書く。

※時間的余裕があれば、Part II～Part VI も同様の活動を行うことが可能。

関連作品・参考 URL

Arrival の豊かな世界は、スピーキングやライティングでのアウトプット活動にもってこいです。本作とともに作者の他作品や、やはり移民を主人公にする Allen Say の *Grandfather's Journey* と併せて読んでみてください（本 HP の絵本紹介欄 *Grandfather's Journey* 参照）。

文字がない本作は、ぜひ学生の意見交換から出されたテーマ（例えば、「移民」「別離」「家族」「信頼」等）を選び、関連の作品を探し併せて読んでみるとよいでしょう。英語の授業だけでなく異文化理解の授業にも援用できます。

以下の著作やサイトも参考にしてください。

- 『ショーン・タンの世界 どこでもないどこかへ』 ちひろ美術館監修、求龍堂、2019 年（展覧会「ショーン・タンの世界展 どこでもないどこかへ」ちひろ美術館・東京 2019 年 5 月 11 日～7 月 28 日 公式図録兼書籍）
- Shaun Tan. (2012). *Sketches from a Nameless Land: The Art of the Arrival*. Melbourne, Australia: Lothian Children's Books. (『見知らぬ国のスケッチ アライバルの世界』小林美幸訳、河出書房新社、2014 年)
- Shaun Tan. (2018). *Tale from the Inner City*. New York: Arthur a Levine Books. (『内なる町から来た話』岸本佐和子訳、河出書房新社、2020 年) (ケイト・グリーンナウェイ賞受賞)
- Shaun Tan のオフィシャルページ <http://www.shauntan.net/>
- Shaun Tan 創作のショート・アニメーション *The Lost Thing Trailer*
<https://www.shauntan.net/film-and-theatre>

(文責：草薙優加)